

第2回富良野市農政審議会 会議録

日 時：令和5年8月1日（火）18:30～20:10

場 所：富良野市複合庁舎1階 文化会館会議室 C,D

出席委員：小師和彦委員 藤野啓一郎委員 杉村鉄也委員

池田勝委員 岡田憲雄委員 小笠原博委員

鶴井敦士委員 桑折裕美子委員 林真佐子

狩野康弘委員 東山寛委員（Web参加）

一宮孝一委員（石垣） 本谷志雅子委員

※欠席 高田忠明委員、菊地邦之委員

事務局：川上経済部長 松木農林課長 西出主幹

中井担い手育成係長 小尾畜産係長

西尾農業振興係長 小野塚係員

1. 開 会（司会：松木農林課長）

2. 委員長挨拶（小師委員長）

- ・連日30度超えで体力も奪われてご苦労していることと思います。
- ・富良野の作物は、この気温でかなり前進している。玉ねぎの早生の収穫が始まった。ハウスのメロン、スイカ等値段は良いが小玉傾向と聞いている。今後の天候が安定することを願う。
- ・本日、2回目の審議会となり忌憚のない意見を頂き計画に向けて答申していきたい。

3. 審 議

（1）アンケート調査の集計結果について

●小師委員長

事務局よりアンケート調査の集計結果について報告願います。

●事務局 西尾

○事務局より以下の点を説明した。

- ・21の問いの調査結果について、回答が多かった項目などグラフを用いて説明。
- ・総括として、人口減少、労働力不足、後継者不足が深刻な問題となっていく中で、離農者が増え、その農地を買い取り経営面積が増えていくという傾向が続いている。経営面積拡大と機械化により収益増加となった一方で、物価高騰、鳥獣被害の影響で経営が悪化している農家もいる。
- ・課題として、後継者不足、労働者の減少、高齢化、労賃の高騰といった状況化での労働力確保などが挙げられる。
- ・重点的に取り組むべき施策は、経営所得安定対策、スマート農業機器を含めた農業機械導入の支援、基盤整備事業の実施、鳥獣害対策、新規就農への支援などが挙げ

られた。

●小師委員長

各委員から忌憚のない意見をお願いしたい。

●小師委員長

- ・経営地区の配分（戸数）はどのくらいになっているのか。
⇒富良野240 東部60 山部150 東山100 計550
- ・後継者について30%いることも前向きにとらえ、その後継者をどう育てるか。
こういったところに投資していくことも考えてみてどうか。
- ・鹿柵、電牧の要望が多くなっている。
- ・快適な生活環境の維持では、道路、高速通信網が多く挙げられているが、農村地域で学校や店舗がないことが生活のネックとなっている。

●藤野副委員長

- ・後継者で気になっているのが、地域間格差。作付けによっても変わるのではないか。肥料価格が2割近く上昇し、畑作で面積が多いと経費がかさむ。農産物（価格）が上がらないと高齢者の方も後継者もやる気をなくしてしまう。
- ・今週、肥料高騰の補助金についての取りまとめが行われている中で、アンケート調査期間中には、肥料価格高騰分の把握ができていない方もいる。そのあたりを深く踏み込めばよかったと思う。
- ・経営面積の拡大を望んでいる方やいない方、多種多様な中でコーディネートが必要。

●小師委員長

（2）第3次富良野市農業及び農村基本計画の検証について、（3）新たな基本計画における施策毎の取組について、事務局より説明願います。

●事務局 西尾

○事務局より以下の点を説明した。

- ・現行計画の検証と課題については、前回の審議会でもいただいた意見を反映したところを説明。
- ・新たな基本計画における施策については、各項目の検証と課題を踏まえ、国や道の施策や前回示したキーワードなどを基に、取組（案）について説明。

●小師委員長

- ・施策について大きく3つに分類しているがこれでよろしいか。

⇒意見なし

○1. 農業の持続的発展に関する施策について、ご意見を願います。

●小笠原委員

- ・施策内容全体を見てみると、過去の富良野の状況があればできるものとなっている。人口減少、農家戸数が減少していく中で、デイワークの推進をしても、人が

いないとどうにもできない。後継者のために環境を整えていく必要がある。
富良野の知名度が落ちているため、行政、市民など全体で知名度を上げるための努力が必要。

●小師委員長

- ・農業のみでなく、観光も知名度を上げる努力が必要ではないか。

●事務局 川上経済部長

- ・今年度からシティプロモーション課を新設し、PR 活動に力を入れている。まず、農業と雪（冬）を魅せていく。7月1日から31日まで1ヶ月間富良野フェアを札幌のホテルで開催し富良野の農畜産品を食す機会等を行ってきている。
- ・ブランド総合研究所での魅力度ランキングが5～7位をキープしてきたが、最近では10位以下に転落したことで危機感が出てきた。今後魅せ方など考えていく。

●小師委員長

- ・メディア戦略を計画に入れる必要はあるか。
- ⇒テレビ放映されると、かなり効果がある。

●藤野副委員長

- ・南富良野町のまちづくりプロフェッショナルのような人はいないのか。
農林課と観光課の連携が必要ではないか。

●事務局 川上経済部長

- ・広域的な連携も含めてやっていく必要がある。

●松木課長

- ・富良野ブランドの構築までは至っていないので、観光に限らず環境との連携などを行い、富良野ブランドを作っていく。

●N T T（石垣氏）

- ・担い手確保について、デイワークの推進はマッチングアプリとイコールなので統一をしたほうがよい。
- ・前回宿題となっていたデイワークアプリの照会について、デイワークとタイミートラベルについての情報提供。

●小師委員長

- ・市内の労働力掘り起こしも必要。今年、JA が休日の副業を解禁した。援農も行っており職業上、手伝っている。市内で広がればよい。

●小笠原委員

- ・年配の人は、農業は仕事の選択肢として持っているが、若い人は、農業はつらい仕事というイメージがあり選択肢にないので、働きにきてくれないのではと考える。

●鶴井委員

- ・法人として人を集める視点として、求人は常時出しているが応募がない。来ても

高齢である。北海道道内の離農者が増えていて、その従業員が応募するがマッチングする機会がない。ハローワークでは会社の希望が反映されにくい。
人材会社を通すと選別はされるが報酬費の3分の1を払う必要がある。外国人実習生なりを何年も受入れていると現在大きな力になっているので、窓口をうまく活用できればよい。

●事務局 松木課長から各委員へ

・農業と別の仕事を組み合わせた働き方では、冬場に仕事が少ない農業と他（観光など）の産業と組み合わせて年間雇用を獲得することはこれから広がっていくのではないか。農業者の皆様は、そういった取組の推進はどのように感じているか。JA で地域間連携はしているが、産業間連携は考えとして持っているのかお聞きしたい。

●杉村委員

・富良野の冬の仕事（冬期間だけの雇用）は、スキー場関係以外あまりないのではないか。

●岡田委員

・農家の人（雇用主）も農家以外の事を経験することによって、雇用される側の立場がわかるので良いことではないか。

●小師委員長

・半農半 X では、農家の仕事は見つかるが一方の X の方を見つける方が大変ではないか。

○2. 農村の維持及び振興に関する施策について、3. 農畜産物の安全及び安心を確保するための施策についてご意見をお願いします。

●本谷委員

・農業をアピールしていくことも必要ではないか。自分たちの子供や他人に対して農業は楽しいものだということもアピールしていけばよいのでは。そうすることで、一緒に働く人たちもポジティブな気分で働ける。そういうことが連鎖していけばよいのではと思う。

●林委員

・鳥獣被害については切実な問題である。近年はアライグマの被害が多く、電気牧柵で囲っているがアライグマは入ってくる。自分たちで努力をしているが個体数が増えており、収入に直結する問題なので、重点的に取り組んでほしい。

●小師委員長

・市内には4地域に鹿柵協議会がある。市に活動費を助成してもらい管理している。鹿柵の更新について国にお願いしているが、電牧での対策が一番かと思う。電牧の張り方についての講習会も必要である。これだけの大きな耕作地を囲うこ

とは現状難しい。

●池田委員

・鳥獣被害では、最近ウサギの被害も多い。次期計画にウサギも入れるべき。増えた原因は冬のえさを確保できるようになったためか。個々の対処についても必要になってきている。

・鹿柵で囲っていることによって、囲っている外の部分で繁殖しハンターが撃てないが、囲っている中に入ってくると撃つことができ繁殖を抑えることができる。全体を囲うことについては、今後議論していく必要があるのではないか。

●事務局 川上経済部長

・先日の作況調査において、電牧をきちんと設置することで被害を防ぐことができている方がいた。今後張り方の講習会を実施していければよいのではないか。

・毎年、地域懇談会に行くと鳥獣害対策について必ず要望が出る。支援策を検討している。沿線の自治体で、道に要望を出す動きをしている。

○小師委員長 その他、全体を通して意見があればお願いします。

●狩野委員

・小笠原委員の話で、年代毎に届くような発信の仕方をする必要があるのではないか。NTTでの企業広告の仕方をご紹介いただければお願いしたい。

●NTT（石垣氏、一宮委員）

・人を確保することは共通の課題である。通信・電話のイメージが強いが、それ以外の部分も、YouTube やテレビ CM を使ってイメージ戦略、地域での活動を発信している。

●藤野副委員長

・情報発信できる人材を育てる必要もあるのではないか。市、農業、関係なく市のホームページに農業者のホームページのリンクを張れないか。

・グリーンツーリズムはまだ生きているのか。

●事務局 松木課長

・昭和の発想に近いので、言い方を変える必要はあると考えている。農業のみの体験では来ない。農業の魅力を如何に発信するか、短い時間で情報を伝えられるかだと思う。

・シティプロモーションでは、富良野で発信しているカラーに統一性を持たせていくことから始めようとしている。

●東山委員

・外国人材の確保について、家族滞在で長く働く人を想定しているので、行政で外国人を受け入れる環境整備（出産、生活、教育など）が必要と考えるので検討してほしい。

・石狩市では、総務省のモデル事業で関係人口創出に取り組んでいる。「アグリカルチャー」と「ワーケーション」を掛け合わせて、「アグリケーション」という言葉を作り、今年3年目に入り成功している。機会があれば視察の検討もしてはどうか。

●事務局 川上経済部長

・今後は、外国人雇用が必要である一方で、日本で働いても金にならないので他の国に行っている現状がある。

○小師委員長

次に4. 今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。

●事務局 西尾

第3回審議会を9月中旬に開催、第4回の審議会11月上旬に開催予定しております。

○小師委員長

5. その他について、視察については、事務局と検討して決めていきたい。これで第2回目の審議会を閉じさせていただきます。